

アメリカ人種問題における新しい要因

(38年5月15日 講演)

Ira De Reid

アメリカの人種問題を黒人問題に限定するのは適正でない。なぜならば、アメリカ民主主義の歴史は、まさに、各種人種の社会的適応の歴史であるからである。

人種問題、特に、黒人問題を究明するには、(1)「自由」とは何か、(2)人種適応に関する憲法解釈の意義—この二つの要素を掘りさげなくてはならない。黒人=白人の問題は、南北戦争後、奴隷解放により(1863年)、黒人に、他のアメリカ人と同じ市民権が賦与されて以来の問題である。実に、この100年は、歴史的にみて、黒人の地位確立のための試練期であったといえる。

社会学的に言えば、黒人と白人との関係を調整するための方法 (Patterns of Accommodation) は、いわゆる Segregation (分離)、すなわち、黒人を白人から隔離することであった。Segregation は、社会的には問題があったが、法律上及び宗教上は認められた原理であった。南部奴隷保有州では、19世紀末から20世紀初め、人種差別に基く「分離」法令が制定され、1954年まで有効に施行された。しかし、黒人の分離に係る根本問題に、民主主義で保障されるべき黒人の権利、権限が制約をうけることであった。南部においては、1954年来このような「分離」法令は、漸次廃止され、今日ではほとんど無くなっている。又、歴史的に人種雑居で知られた北部でも、第一次大戦後、人種による居住地区劃が顕著になったものの、それまで存在していたいわゆる「黒人の仕事」は次第に消失し、今日ではほとんど存在しなくなった。このような変動は、アメリカ人種問題の重要な要因の一つである。この趨勢は、1917年以来の一連の裁判所判決によって助長されたものである。NAACP (全国有色人種協会) は、例のスウィート事件の告訴をはじめ、人種差別撤廃のため、法律闘争を展開し、ついに、1954年、最高裁判決により、初めて黒人のため、憲法による平等をかちとった。また、これにより、大統領の人種問題措置上の権限が強化されたこととなった。連邦政府に、少数民族保護のため、法律を発動する権限が与えられたのは、アメリカ史上初めてのことである。この事実は、今日われわれの直面する人種問題を決する重要な要因と考えられる。

さらに、第二次大戦後、アフリカ諸国の外交官が多くアメリカに来るに及んで、国内の黒人に対する見方が変動して来た事実も、一つの要因として看過できないところである。

最後に、アメリカ人種問題における最も新しい要因は、マーチン・ルーサ・キング博士指導の、戦術としての、「非暴力主義」(Non-violence) である。これは「弱者の力」(Power of the Weak) の反映と目され、青年層に強力な支持をもつ。武器を抛棄し、警察力に頼らず、ただ己れの誠実を信じ、無抵抗をもって、いかなる圧迫にも対処し、窮極の目的を完遂しようという態度である。しかし、暴力と非暴力とは常に併列するものだけに、あらゆる事態において、非暴力主義に徹することは容易なわざではない。現に、今次のバーミングハム事件においても、一部の者が暴徒化した例もある。要するに、人種問題解決のための戦術として、「弱者の力」「非暴力主義」の理想を高揚する態度は、一つの新しい要因として注目すべきことである。

(神戸アメリカ文化センター 月報 7, 1963 より転載)

略 歷

Born - 1906 (62 years old)

Education :

- 1922 A. B., Morehouse College
- 1925 M. A., University of Pittsburg
- 1939 Ph. D., Columbia University

Occupation :

- 1934 - 46 Prof. of Sociology, Atlanta University
- 1946 - 47 Prof. of Educational Sociology, New York University
- 1951 - 54 Prof. of Sociology at N. Y. School of Social Work, Columbia University
- 1954-pres. Prof. and Chairman, Department of Sociology and Anthropology, Haverford College, Pa.
- 1946 - 48 Member of Advisory Committee, U. S. Dept. of Labor Pres. Visiting
Pres. Visiting Professor of Sociology, International Christian University,
Tokyo.

Publications :

- The Negro Immigrant*, 1939
- In a Minor Key*, 1940
- Editor, *Racial Desegregation and Integration*, 1956
- Phylon Journal, *Race and Culture*, 1943-47
- Education and Sociology, *The Race and Culture of American Negro*